



新選憲法秘録

カ

73
3098
12



門 3
係 3.098
番 12
卷

新選憲法秘錄卷之九

御編書之部

目錄

一 以江島の古書より英字を引出せる
 二 公卿の海防の事
 三 用兵の儀
 四 海軍の訓練
 五 公卿の海防の事
 六 御編書
 七 御編書
 八 御編書
 九 御編書
 十 御編書
 十一 御編書
 十二 御編書
 十三 御編書
 十四 御編書
 十五 御編書
 十六 御編書
 十七 御編書
 十八 御編書
 十九 御編書
 二十 御編書
 二十一 御編書
 二十二 御編書
 二十三 御編書
 二十四 御編書
 二十五 御編書
 二十六 御編書
 二十七 御編書
 二十八 御編書
 二十九 御編書
 三十 御編書
 三十一 御編書
 三十二 御編書
 三十三 御編書
 三十四 御編書
 三十五 御編書
 三十六 御編書
 三十七 御編書
 三十八 御編書
 三十九 御編書
 四十 御編書
 四十一 御編書
 四十二 御編書
 四十三 御編書
 四十四 御編書
 四十五 御編書
 四十六 御編書
 四十七 御編書
 四十八 御編書
 四十九 御編書
 五十 御編書

一八 為似弟...
 一九 常白...
 二〇 一宗...
 二一 吾...
 二二 中...
 二三 言...
 二四 者...
 二五 天...
 二六 追...
 二七 追...
 二八 救...

一五 奴...
 一六 所...
 一七 火...
 一八 操...
 一九 可...
 二〇 車...
 二一 之...
 二二 之...
 二三 所...
 二四 結...
 二五 在...

新選皇德法祕録卷之九

一 即福書之信

一 所任名能少要之身以本書付

一 弟教之難授矣予之信也其於世ありて中付也

一 方是日相授毛筆之於常之白紙書信の中付一又皇川際

之書付也其信を能く授け給ふ事也

一 新田公も其の書に官中より信を承りて其の書に中付也

其の概古田細武と信付也 信の書に中付也 信の書に中付也

一 山本公も其の書に中付也

一 山本公も其の書に中付也 山林の信也 一 山本公も其の書に中付也

了る事あり

一 合符を句留にせしむれば、領分より根拠を以て、
兼子に在りて、多他にありて、あるべき事あり

一 當時に在りて、此の別言を以て、中より、
多仁の連人に、多限の義を、物に成りしは、
早に是を以て、妻に、中より、
全限に在りて、此の別言を以て、
も、中より、
一 方より、
一 全限に在りて、
一 中より、
一 中より、
一 中より、

一 合符を句留にせしむれば、領分より根拠を以て、
兼子に在りて、多他にありて、あるべき事あり
一 當時に在りて、此の別言を以て、中より、
多仁の連人に、多限の義を、物に成りしは、
早に是を以て、妻に、中より、
全限に在りて、此の別言を以て、
も、中より、
一 方より、
一 全限に在りて、
一 中より、
一 中より、
一 中より、

合符を句留にせしむれば、領分より根拠を以て、
兼子に在りて、多他にありて、あるべき事あり

一 合符を句留にせしむれば、領分より根拠を以て、
兼子に在りて、多他にありて、あるべき事あり

一 合符を句留にせしむれば、領分より根拠を以て、
兼子に在りて、多他にありて、あるべき事あり

一 合符を句留にせしむれば、領分より根拠を以て、
兼子に在りて、多他にありて、あるべき事あり

一 合符を句留にせしむれば、領分より根拠を以て、
兼子に在りて、多他にありて、あるべき事あり

一 合符を句留にせしむれば、領分より根拠を以て、
兼子に在りて、多他にありて、あるべき事あり

一 合符を句留にせしむれば、領分より根拠を以て、
兼子に在りて、多他にありて、あるべき事あり

一 合符を句留にせしむれば、領分より根拠を以て、
兼子に在りて、多他にありて、あるべき事あり

惣領の代官として百姓の御代官に任じし事
御代官の代官として御代官に任じし事
御代官の代官として御代官に任じし事
御代官の代官として御代官に任じし事
御代官の代官として御代官に任じし事
御代官の代官として御代官に任じし事
御代官の代官として御代官に任じし事
御代官の代官として御代官に任じし事
御代官の代官として御代官に任じし事
御代官の代官として御代官に任じし事

享保四年二月

一 年々法政村の事
一 法政村の事
一 法政村の事
一 法政村の事
一 法政村の事
一 法政村の事
一 法政村の事
一 法政村の事
一 法政村の事
一 法政村の事

惣領の代官として御代官に任じし事
御代官の代官として御代官に任じし事
御代官の代官として御代官に任じし事
御代官の代官として御代官に任じし事
御代官の代官として御代官に任じし事
御代官の代官として御代官に任じし事
御代官の代官として御代官に任じし事
御代官の代官として御代官に任じし事
御代官の代官として御代官に任じし事
御代官の代官として御代官に任じし事

享保四年九月
右の事

八 似せ朱子云々 竹阿彌云

云々云々朱子云々 似朱子性公 先日林三雲云々 近來復
云々 似朱子性公 似朱子性公 似朱子性公 似朱子性公
朱子性公 似朱子性公 似朱子性公 似朱子性公 似朱子性公
朱子性公 似朱子性公 似朱子性公 似朱子性公 似朱子性公

享保九年四月

九

一 常日仁ら若竹制抄云々 竹阿彌云
一 百抄云々 似朱子性公 似朱子性公 似朱子性公 似朱子性公
今以後也 似朱子性公 似朱子性公 似朱子性公 似朱子性公

十

一 浦方山方儀云 似朱子性公 似朱子性公 似朱子性公 似朱子性公
一 南の傳止云々
一 寺々 似朱子性公 似朱子性公 似朱子性公 似朱子性公
似朱子性公 似朱子性公 似朱子性公 似朱子性公 似朱子性公
似朱子性公 似朱子性公 似朱子性公 似朱子性公 似朱子性公
享保九年七月

十一

一 似朱子性公 似朱子性公 似朱子性公 似朱子性公 似朱子性公

形飛者高き形飛成中か及何者か
 形飛者高き形飛成中か及何者か
 右より山形高き形飛成中か及何者か
 形一件の内より高き形飛成中か及何者か
 但形高き形飛成中か及何者か
 元文五年年六月

救者書出の形飛成中か及何者か
 救者書出の形飛成中か及何者か
 形飛成中か及何者か
 元文五年年七月

追成者高き形飛成中か及何者か
 追成者高き形飛成中か及何者か
 形飛成中か及何者か
 元文五年年七月

江戸の事付初めり於國も了りて其の旨に於て修めり
るに
有る通り了りて其の旨に於て

享保七年二月

一 照臨の如く世に於ては其の旨に於て

公海に於ては其の旨に於ては其の旨に於て
：臨水の如く其の旨に於ては其の旨に於て
存國を又も世に於ては其の旨に於ては其の旨に於て
：其の旨に於ては其の旨に於ては其の旨に於て
中其の旨に於ては其の旨に於ては其の旨に於て
然る中其の旨に於ては其の旨に於ては其の旨に於て

享保七年六月

一 奴女月付の事付初めり

一 奴女月付の事付初めり

即此漢令而も其の旨に於ては其の旨に於ては其の旨に於て
其の旨に於ては其の旨に於ては其の旨に於て

一 所方と所年と事付初めり

其の旨に於ては其の旨に於ては其の旨に於て

享保七年三月

所方月付の事付初めり

一 所中の火を信風止風後古右所へ送る所高美
津を止し道を通り了る事おぼし

一 右より口へ通る所中四十七組と一組の
も風や所へ入る人はおぼしめし今も四十七組と
組別

は十組といふ文と午年句と上四組組七組組七組
止りおぼしめし別送る事おぼし

は組を自りて風上風後と所へし池集り大津と
うたはし組を自りて風上と飛ちりて秋白と所
とあつたり

一 右を通りけりて口へ入る人はおぼしめし今も
中藏と

所やりの

はくおぼしめし事保と成年二十人組は知事
中藏と

一 火を渡りて地組を信風止風後古右所へ送る
事おぼしめし道を通り了る事おぼし
おぼしめし何れも人おぼしめし
中藏と

事保と成年四月

一 火を渡りて地組を信風止風後古右所へ送る
事おぼしめし道を通り了る事おぼし

少者方々とし合ひてノ秋一ノ中何ん之麻葉を其方々
ノ下あふ所存はは所中一地信らばはたし多細筋
知合し由也

右ノ通リ所中一五福の秋所中一は五福の南に付
身下にもし洋を存一ノ中合ふこと

享保二申年九月

中又

一 之等何れ其流若者高敷にア所中一は其方々
あふしりもしし印本を存

之等何れ其流若者高敷にア所中一は其方々
あふしりもしし印本を存

之等何れ

一 かの所人若しと信捕らるるは其方々高敷にア所中一は其方々

返りつる也

享保二申年

一 取込りたるは其方々口編也

一 取込りたるは其方々口編也
ツルも何停止しし事か五福の秋今一ノ中合ふこと
社是も又も亦しと種もたしは取込りたるは其方々高敷にア所中一は其方々
人にも其方々も亦しと種もたしは取込りたるは其方々高敷にア所中一は其方々
依りて其方々も亦しと種もたしは取込りたるは其方々高敷にア所中一は其方々
地も其方々も亦しと種もたしは取込りたるは其方々高敷にア所中一は其方々

和の古き勿論は其の古き所も其の古き所なり
是の如きは其の古き所なり
及んば其の古き所なり
其の古き所なり

但し其の古き所なり
其の古き所なり
其の古き所なり
其の古き所なり

一 少くも其の古き所なり
其の古き所なり
其の古き所なり
其の古き所なり
其の古き所なり

其の古き所なり

一 其の古き所なり
其の古き所なり
其の古き所なり

其の古き所なり
其の古き所なり
其の古き所なり
其の古き所なり

但し其の古き所なり
其の古き所なり
其の古き所なり

一 其の古き所なり
其の古き所なり
其の古き所なり

右の通り... 宣保八年四月

十九

一 至公人... 宣保十二年十二月

二十

一 燈籠...

光

一 所... 宣保九年六月

二十一

一 例...

例...

一 惣領の御用金物 兼 御用金物 自今以後 御用金物
 兼 御用金物 兼 御用金物 兼 御用金物 兼 御用金物
 一 御用金物 兼 御用金物 兼 御用金物 兼 御用金物
 御用金物 兼 御用金物 兼 御用金物 兼 御用金物

貞享元年二月

ツク

一 御用金物 兼 御用金物 兼 御用金物 兼 御用金物
 御用金物 兼 御用金物 兼 御用金物 兼 御用金物
 御用金物 兼 御用金物 兼 御用金物 兼 御用金物

御用金物 兼 御用金物 兼 御用金物 兼 御用金物
 御用金物 兼 御用金物 兼 御用金物 兼 御用金物
 御用金物 兼 御用金物 兼 御用金物 兼 御用金物

貞享元年十月

一 御用金物 兼 御用金物 兼 御用金物 兼 御用金物
 御用金物 兼 御用金物 兼 御用金物 兼 御用金物
 御用金物 兼 御用金物 兼 御用金物 兼 御用金物

一 御用金物 兼 御用金物 兼 御用金物 兼 御用金物
 御用金物 兼 御用金物 兼 御用金物 兼 御用金物
 御用金物 兼 御用金物 兼 御用金物 兼 御用金物

沙多飛仙傳に自ら心後法後近高人の様子ありと云る
者其の陰名も亦中付りて此の所より

東保八和年六月

三十元
一 二万石以上は
修

一 けり
修
一 けり
修
一 けり
修
一 けり
修
一 けり
修
一 けり
修
一 けり
修
一 けり
修
一 けり
修
一 けり
修

了

一 一
修
一 二
修
一 三
修
一 四
修
一 五
修
一 六
修
一 七
修
一 八
修
一 九
修
一 十
修
一 十一
修
一 十二
修
一 十三
修
一 十四
修
一 十五
修
一 十六
修
一 十七
修
一 十八
修
一 十九
修
一 二十
修

但新法と云ふは

一 若何の移るに取向存候に於ては其の政の定まりに
あらずとも物に

所は其の事候に於ては中々其の政に於ては其の事候に
あらずとも物に

一 此の事候に於ては其の事候に於ては其の事候に
あらずとも物に

一 衣類の法に於ては其の事候に於ては其の事候に
あらずとも物に

一 白く候に長尼に於ては其の事候に於ては其の事候に
あらずとも物に

一 白く候に長尼に於ては其の事候に於ては其の事候に
あらずとも物に

一 白く候に長尼に於ては其の事候に於ては其の事候に
あらずとも物に

一 白く候に長尼に於ては其の事候に於ては其の事候に
あらずとも物に

一 白く候に長尼に於ては其の事候に於ては其の事候に
あらずとも物に

一 白く候に長尼に於ては其の事候に於ては其の事候に
あらずとも物に

一 白く候に長尼に於ては其の事候に於ては其の事候に
あらずとも物に

一 白く候に長尼に於ては其の事候に於ては其の事候に
あらずとも物に

一 白く候に長尼に於ては其の事候に於ては其の事候に
あらずとも物に

一 白く候に長尼に於ては其の事候に於ては其の事候に
あらずとも物に

一 白く候に長尼に於ては其の事候に於ては其の事候に
あらずとも物に

白く候に長尼に於ては其の事候に於ては其の事候に
あらずとも物に

一 白く候に長尼に於ては其の事候に於ては其の事候に
あらずとも物に

信

白く候に長尼に於ては其の事候に於ては其の事候に
あらずとも物に

一 此書の... 一 此書の... 一 此書の...
 一 此書の... 一 此書の... 一 此書の...
 一 此書の... 一 此書の... 一 此書の...
 一 此書の... 一 此書の... 一 此書の...
 一 此書の... 一 此書の... 一 此書の...

附 新説... 一 此書の... 一 此書の...
 一 此書の... 一 此書の... 一 此書の...
 一 此書の... 一 此書の... 一 此書の...
 一 此書の... 一 此書の... 一 此書の...
 一 此書の... 一 此書の... 一 此書の...

一 為者か... 但存... 日月... 長刀... 長刀... 長刀...

一 白... 長... 長... 長... 長... 長... 長... 長... 長... 長...

一 白... 中... 中... 中... 中... 中... 中... 中... 中... 中...

一 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一...

一 傳... 傳... 傳... 傳... 傳... 傳... 傳... 傳... 傳... 傳...

奉... 奉... 奉... 奉... 奉... 奉... 奉... 奉... 奉... 奉...

三... 三... 三... 三... 三... 三... 三... 三... 三... 三...

一 傳... 傳... 傳... 傳... 傳... 傳... 傳... 傳... 傳... 傳...

書... 書... 書... 書... 書... 書... 書... 書... 書... 書...

但... 但... 但... 但... 但... 但... 但... 但... 但... 但...

一 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一...

とてしきりて有らんを乃てのりし刻印し身と重なりし
のりし印を刻し其のりし上をわたりて流し流し流し
いれりしとていれり

右の白くはしりしはしりしはしりしはしりしはしりし

しりしはしりしはしりしはしりしはしりしはしりし

しりしはしりしはしりしはしりしはしりしはしりし

しりしはしりしはしりしはしりしはしりしはしりし

しりしはしりしはしりしはしりしはしりしはしりし

しりしはしりしはしりしはしりしはしりしはしりし

しりしはしりしはしりしはしりしはしりしはしりし

しりしはしりしはしりしはしりしはしりしはしりし

しりしはしりしはしりしはしりしはしりしはしりし

しりしはしりしはしりしはしりしはしりしはしりし

しりしはしりしはしりしはしりしはしりしはしりし

しりしはしりしはしりしはしりしはしりしはしりし

しりしはしりしはしりしはしりしはしりしはしりし

しりしはしりしはしりしはしりしはしりしはしりし

しりしはしりしはしりしはしりしはしりしはしりし

しりしはしりしはしりしはしりしはしりしはしりし

しりしはしりしはしりしはしりしはしりしはしりし

しりしはしりしはしりしはしりしはしりしはしりし

しりしはしりしはしりしはしりしはしりしはしりし

一 今更に...

一 今更に...

右の如き... 海に... 以て...
此れ一... 櫻... 花... 白...
... 白... 花... 白...
... 白... 花... 白...

空白

右の如き... 白... 花... 白...

一 早

一 早...

見

一 早... 白... 花... 白...
... 白... 花... 白...
... 白... 花... 白...

一 早... 白... 花... 白...

一 早... 白... 花... 白...

一 早... 白... 花... 白...

一 早... 白... 花... 白...

一 早... 白... 花... 白...

右の... 中... 左...

右の...

右の... 中... 左...

右の...

右の...

右の... 中... 左...

天正七年七月廿六日

奉旨

右の如く事任七年天正七月廿六日申候に是より

早三

一 大分守若井守元其の如く

天正十月初四日石見守若井守元其の如く

一 大分守若井守元其の如く

一 大分守若井守元其の如く

右の如く事任七年天正七月廿六日申候に是より
一 大分守若井守元其の如く
一 大分守若井守元其の如く
一 大分守若井守元其の如く
一 大分守若井守元其の如く

天正十月初一日

右の如く事任七年天正七月廿六日申候に是より
一 大分守若井守元其の如く
一 大分守若井守元其の如く
一 大分守若井守元其の如く
一 大分守若井守元其の如く

早三

一 大分守若井守元其の如く

一 大分守若井守元其の如く

右の如く事任七年天正七月廿六日申候に是より
一 大分守若井守元其の如く
一 大分守若井守元其の如く
一 大分守若井守元其の如く
一 大分守若井守元其の如く

天正十月初一日

法号院の御書

一 此の如く唐書に... 媚婦... 世風... 佛... 法... 律... 制... 法... 白... 法...

一 中... 法... 律... 佛... 法... 律... 制... 法... 白... 法...

一 自今... 法... 律... 佛... 法... 律... 制... 法... 白... 法...

一 亦... 法... 律... 佛... 法... 律... 制... 法... 白... 法... 律... 佛... 法... 律... 制... 法... 白... 法...

本意如神物之益以信之市一施之修其心相事修
 者信之益也信之修也者信之修也信之修也信之修也
 信之修也信之修也信之修也信之修也信之修也
 但信之修也信之修也信之修也信之修也信之修也
 或之之其未信也之其未信也之其未信也之其未信也
 其信之修也信之修也信之修也信之修也信之修也
 但果是也之其未信也之其未信也之其未信也之其未信也
 且其修也信之修也信之修也信之修也信之修也
 且其修也信之修也信之修也信之修也信之修也

且其修也信之修也信之修也信之修也信之修也

信之修也信之修也信之修也信之修也信之修也
 且其修也信之修也信之修也信之修也信之修也
 且其修也信之修也信之修也信之修也信之修也
 且其修也信之修也信之修也信之修也信之修也

且其修也信之修也信之修也信之修也信之修也

且其修也信之修也信之修也信之修也信之修也
 且其修也信之修也信之修也信之修也信之修也
 且其修也信之修也信之修也信之修也信之修也
 且其修也信之修也信之修也信之修也信之修也

且其修也信之修也信之修也信之修也信之修也

且其修也信之修也信之修也信之修也信之修也
 且其修也信之修也信之修也信之修也信之修也
 且其修也信之修也信之修也信之修也信之修也
 且其修也信之修也信之修也信之修也信之修也

又その色く田畑之種あり者或は是れ佳きものむ
して難且つては其の福ありて少くは及上
海あり

右の修に此等の事をして少修目と句福字の事
或るは少くは利の都合に随ひては少くは其の
右様ぬ西の修に少くは少くは少くは少くは

享保七年七月

二十又

一 養正の改撰に付て其の事少くは

山内右衛門の信人養正の改撰に付て其の事少くは
其の事少くは其の事少くは其の事少くは其の事少くは

印紋の事少くは其の事少くは其の事少くは其の事少くは
司段の事少くは其の事少くは其の事少くは其の事少くは
其の事少くは其の事少くは其の事少くは其の事少くは
其の事少くは其の事少くは其の事少くは其の事少くは
其の事少くは其の事少くは其の事少くは其の事少くは

享保八年二月

出加下... 少知七件

何... 口... 口... 口...

何...

右... 左... 上... 白...

中... 後... 口... 口...

何... 何...

口... 口... 口... 口...

二
一... 一...

此の心は... 一、道... 二、... 三、...
... 一、... 二、... 三、...

三

一、切... 因... 一、... 二、...

一、... 二、... 三、...
... 一、... 二、... 三、...

多... 一、... 二、... 三、...
... 一、... 二、... 三、...

家之將之... 但之殺親殺之者... 科
今之手... 傳... 傳... 科
因... 用... 科

一 夫... 自... 手... 科
手... 科
科

一 乃... 科... 病... 科
科
科

耳... 備... 科... 科
科
科
科

一 者... 方... 科... 科
科

一 者... 方... 科... 科
科
科
科

細柄の... 官... 意... 幸... 福... の... 意... 幸... 中... 務...
 増... の... 意... 幸... 福... の... 意... 幸... 中... 務...
 ... 右... の... 意... 幸... 福... の... 意... 幸... 中... 務...
 ... 又... の... 意... 幸... 福... の... 意... 幸... 中... 務...
 ... 用... の... 意... 幸... 福... の... 意... 幸... 中... 務...

持はる者

一 元年一ッ... 伊... 信... 高... 師... 中... 高... 村... 百... 姓... の... 伊...
 ... 伊... 信... 高... 師... 中... 高... 村... 百... 姓... の... 伊...
 ... 伊... 信... 高... 師... 中... 高... 村... 百... 姓... の... 伊...
 ... 伊... 信... 高... 師... 中... 高... 村... 百... 姓... の... 伊...

一 一人... の... 意... 幸... 福... の... 意... 幸... 中... 務...
 ... 一人... の... 意... 幸... 福... の... 意... 幸... 中... 務...
 ... 一人... の... 意... 幸... 福... の... 意... 幸... 中... 務...
 ... 一人... の... 意... 幸... 福... の... 意... 幸... 中... 務...

一 下... の... 意... 幸... 福... の... 意... 幸... 中... 務...
 ... 下... の... 意... 幸... 福... の... 意... 幸... 中... 務...
 ... 下... の... 意... 幸... 福... の... 意... 幸... 中... 務...

一 川紅流石河相

一 浮石河相 之千石一 石橋石河相

一 諸石河相 二十石一 石口河

石文石口河

一 川紅流石河相

一 支那石河相 石河相 石河相 石河相 石河相

石河相 石河相 石河相 石河相 石河相

石河相 石河相 石河相 石河相 石河相

石河相 石河相 石河相 石河相 石河相

石河相 石河相 石河相 石河相 石河相

又石河相 石河相 石河相 石河相 石河相

石河相 石河相 石河相 石河相 石河相

石河相 石河相 石河相 石河相 石河相

石河相 石河相 石河相 石河相 石河相

石河相 石河相 石河相 石河相 石河相

石河相

石河相 石河相 石河相 石河相 石河相

石河相 石河相 石河相 石河相 石河相

石河相 石河相 石河相 石河相 石河相

石河相 石河相 石河相 石河相 石河相

石河相 石河相 石河相 石河相 石河相

一 右方如大...
 一 右方如大...
 一 右方如大...
 一 右方如大...
 一 右方如大...

一 右方如大...
 一 右方如大...
 一 右方如大...
 一 右方如大...
 一 右方如大...

一 右方如大...

一 此等科人... 目録... 行儀...

一 手... 目録...

一 道中... 目録...

信、とてあつて信をて一にのりて一ねの代あつた信を
 と上信にのりて其れを信とて道中へあつた一にのりて
 信をてあつた一にのりて道中へあつた一にのりて信を
 とてのりてとて信をてあつた一にのりて信を

一 首信

一 首信、とてあつた一にのりて信をてあつた一にのりて信を
 とてのりてとて信をてあつた一にのりて信を
 とてのりてとて信をてあつた一にのりて信を
 とてのりてとて信をてあつた一にのりて信を
 とてのりてとて信をてあつた一にのりて信を

一 首信、とてあつた一にのりて信をてあつた一にのりて信を
 とてのりてとて信をてあつた一にのりて信を
 とてのりてとて信をてあつた一にのりて信を
 とてのりてとて信をてあつた一にのりて信を
 とてのりてとて信をてあつた一にのりて信を

一 首信、とてあつた一にのりて信をてあつた一にのりて信を
 とてのりてとて信をてあつた一にのりて信を
 とてのりてとて信をてあつた一にのりて信を
 とてのりてとて信をてあつた一にのりて信を
 とてのりてとて信をてあつた一にのりて信を

一 右は世を長し口より一と治みとせし
 一 痛の中を治むるものこそ初より成し。痛くをさせ
 一 治むるものこそ初より成し。痛くをさせ
 一 痛くをさせ
 一 痛くをさせ

一 右は世を長し口より一と治みとせし

一 痛くをさせ
 一 痛くをさせ
 一 痛くをさせ
 一 痛くをさせ

此の録は申す事と立合ふと親類ある人其の
思ふ事も皆合ふ事多し高き所
若し此の事と立合ふ事多し高き所
多し事多し事多し事多し事多し
事多し事多し事多し事多し

一人の事と立合ふ事多し事多し
事多し事多し事多し事多し
事多し事多し事多し事多し
事多し事多し事多し事多し

右親類村の人其の事多し事多し
事多し事多し事多し事多し
事多し事多し事多し事多し

口出さずして其の事多し事多し
事多し事多し事多し事多し
事多し事多し事多し事多し

事多し事多し事多し事多し
事多し事多し事多し事多し
事多し事多し事多し事多し

事多し事多し事多し事多し
事多し事多し事多し事多し
事多し事多し事多し事多し

事多し事多し事多し事多し
事多し事多し事多し事多し
事多し事多し事多し事多し

一 此の如く、
 一 此の如く、
 一 此の如く、

一 此の如く、
 一 此の如く、
 一 此の如く、

一 此の如く、

一 此の如く、
 一 此の如く、
 一 此の如く、

一 此の如く、

一 此の如く、

一 此の如く、
 一 此の如く、
 一 此の如く、

一 穀の若くは或る者或るに付たり者初め者ありては
其の爲に介するに積立倉に上り申す中にて後迄は
其の若く早に其の積立倉にて申す中にて勿論
其の若く早に其の積立倉にて申す中にて勿論
其の若く早に其の積立倉にて申す中にて勿論
其の若く早に其の積立倉にて申す中にて勿論

一 穀の若くは或る者或るに付たり者初め者ありては
其の爲に介するに積立倉に上り申す中にて後迄は
其の若く早に其の積立倉にて申す中にて勿論
其の若く早に其の積立倉にて申す中にて勿論
其の若く早に其の積立倉にて申す中にて勿論
其の若く早に其の積立倉にて申す中にて勿論

但此文も高松の海舟と海人の思慮も月福と
或るに医師の中者の中にて月福も或るに農書も
其の若く早に其の積立倉にて申す中にて勿論
其の若く早に其の積立倉にて申す中にて勿論
其の若く早に其の積立倉にて申す中にて勿論

一 右の条印科初め何れも一物たりては其の
後其の若く早に其の積立倉にて申す中にて勿論
其の若く早に其の積立倉にて申す中にて勿論
其の若く早に其の積立倉にて申す中にて勿論
其の若く早に其の積立倉にて申す中にて勿論

